

第3章 景観配慮の考え方

1. 取組姿勢

優れた建造物は、「用（機能）」・「強（強度）」・「美（見映え）」*1の三要素を備えることが条件とされています。明治から昭和初期にかけ、これらの三要素を兼ね備えた土木・建築構造物が数多く造られ、風格ある施設として今なお残されています。

しかし、高度経済成長期以降造られた施設は、「用」・「強」に力点が置かれ、「美」（景観への配慮）が疎かになっているものも少なくありません。

公共施設は、市民の生活の営みや産業・経済などの活動を支えるとともに、地域の良好な景観の形成を先導していく役割を担っています。

公共整備等を行う際は、「用」・「強」・「美」の三要素を総合的に捉え、地域の人々が長い間守り続けてきた文化や生活様式など、風土的な背景も構想・設計等に活かし、地域の美しさの創出へと結びつけていくことが重要となります。



2. 景観に配慮した施設設計の要素

景観は、見る場所（視点）と見られる対象（視対象）の位置関係によって成り立っています。これらの関係性を踏まえた上で、景観に配慮した施設設計の要素には、配置・規模、形態・意匠、色彩等があります。

設計においては、「地域の景観を構成している空間や施設などの形や色彩又は素材などに共通するパターン」（デザインコード）を把握し、整備する施設の周辺との調和の在り方を適切に検討することが必要です。

また、道路や河川堤防など、良好な景観が得られる視点となる場合は、視対象を意識した施設設計が必要です。

(1) 視点と視対象の関係

景観は、視点と視対象の位置関係で大きく変わります。図1では、車内が谷津を眺める視点となっていますが、移動に伴い得られる景観が変化することがわかります。

景観に配慮した施設設計では、視点と視対象の選定が前提となります。

良好な景観は、視対象（見たいものや見せたいもの）が、見やすいことです。良好な視点となる場所を見つけ、視点と視対象の間の空間について、見やすさへの配慮を行うことが大切です。

成田市景観計画では、以下の考え方を基本に、良好な景観の形成に努めるものとしています。

景観形成の基本的な方向

- 良好な景観が得られる視点の確保と掘り起こしに努める。
- 良好な景観が確保できる場合は、視点の場を快適な空間として整備するよう努める。
- 視点と視対象の間の空間について、景観を阻害しないように配慮する。
- 良好な景観について、市民などへの周知やPRに努め、景観づくりを推進していく。

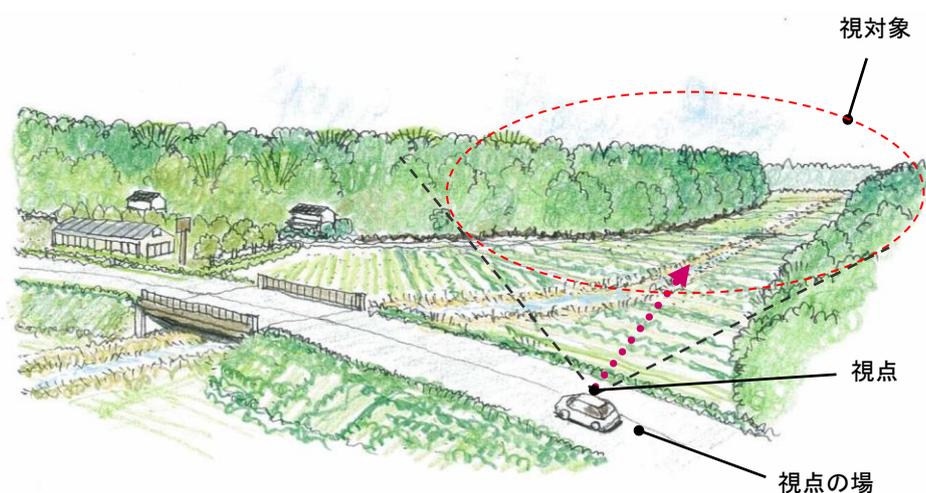


図1 ▲車内が谷津を眺める視点となり、移動に伴い景観が変化し、橋梁の前後で良好な景観を得ることができる。道路構造物や、橋梁などの設計を行う場合は、この区間で谷津が良好に眺められるように配慮し、占用物の位置なども注意する。

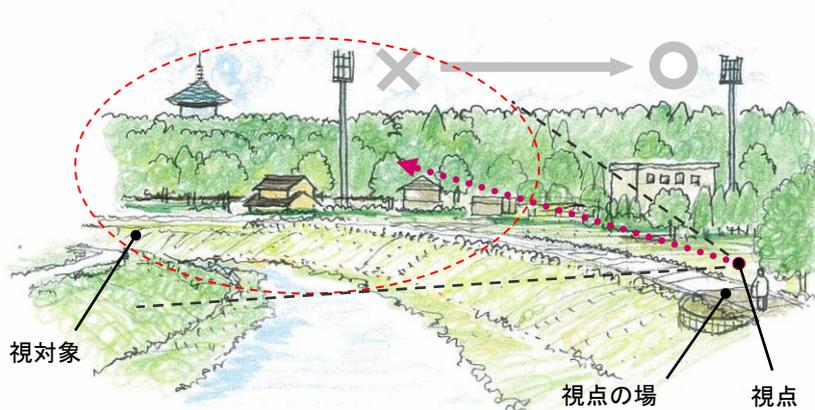


図2 ▲河川堤防から地域の特徴ある眺めが得られる視点である。通信鉄塔の位置の工夫や、歩行空間を視点場として快適に整備することで、良好な景観となる。

(2) 配置・規模

配置・規模は、整備の構想段階で決定づけられ、その後の詳細設計に与える制約に関わることから、慎重な検討を行うことが求められます。

なお、景観に配慮した設計では、スケールを想定した配置・規模を検討することが重要です。

1) グランドスケール

グランドスケールは、地形や空間の広がりや、整備対象の規模との関係を表すものです。

施設が設置される場所の周囲の地形や空間に対して程良い規模かどうかを検討します。

2) ヒューマンスケール

ヒューマンスケールは、整備対象を人間のサイズと比較するものです。

歩道の舗装や広場のデザインなど、身の回りの空間を設計する際には重要な考え方となります。

(3) 形態・意匠、色彩、素材

形態・意匠を設計する際には、景観を構成するそれぞれの要素との形状のバランスが大切です。

また、色彩や素材は、構造物の面に表情を与えます。

設計する際には、整備対象を周囲とどのように調和させるか（周囲と融和させる、或いは強調するなど）を検討し、総合的にデザインします。



▲谷津に架かる道路橋。背景の谷津の景観に対し、シンプルで程良い規模とすることで、違和感が少ない。(グランドスケール)



▲商業地に設けられた緑地。歩行者に圧迫感や閉塞感を与えず、地形を上手に利用して開放的な空間を造り出している。(ヒューマンスケール)



▲利根川に架かる道路橋。曲線処理された桁の形状と、シンプルな色彩の中に一部強調されたラインが、周辺の河川景観に調和した軽快でさわやかな印象を与えている。

3. 景観配慮の進め方

成田市景観計画に定める景観形成の方針を踏まえた計画・整備が効果的に行われるよう、計画・整備における工程を「構想段階」、「設計・施工段階」及び「維持管理段階」に分類し、それぞれの段階での景観配慮の進め方を以下のとおり示します。

構想段階

整備する施設の景観配慮方針（周辺との調和の在り方等）について検討します。

- 景観配慮の対象とする区域と視点場の設定
- 整備する施設が現況の景観に及ぼす影響や保全・活用すべき景観資源の検討
- 景観配慮方針の決定
- 整備する施設の配置や規模の検討

設計・施工段階

構想段階での景観配慮方針に基づき、施設の全体及び個々の要素について設計及び施工を行います。

- 地域の景観資源やデザインコード等の把握と活用の検討
- 景観を構成する空間のバランスを考慮した形態・意匠、色彩、素材の検討
- 安全性や機能性、経済性、汎用性等の検討
- 維持管理の考慮

維持管理段階

構想段階、設計・施工段階で意図された景観を継続的に維持するための管理方法を検討します。

- 景観を維持するために行う維持管理の留意事項等について、関係者間で周知、徹底を図るとともに、街路樹剪定の考え方など、地域住民への理解を求めることが重要
- 除草や清掃等、住民参加型による維持管理の検討

*1：「用」、「強」、「美」

古代ローマ時代の建築家ウィトルウィウスにより提唱された、建築の3大要件。
現代の建築においても変わらない重要な要件として議論されている。

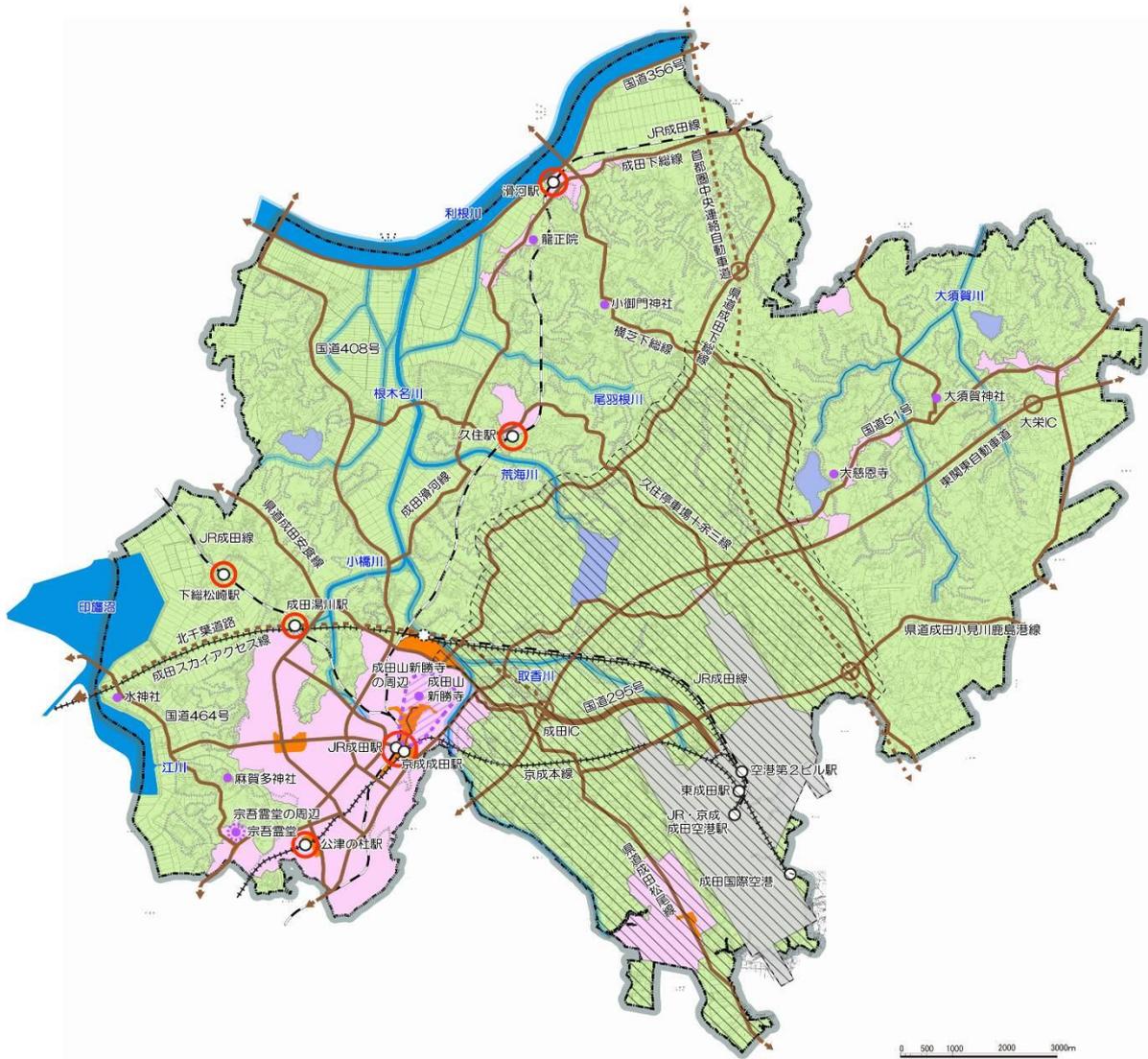
参考文献

「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」（2006 農林水産省農業農村整備部会）

「新体系土木工学 59 土木景観計画」（篠原修 1982 技報堂出版）

「堀繁講話集 景観からの道づくり - 基礎から学ぶ道路景観の理論と実践 -」（堀繁 2008 (財)道路環境研究所）

【参考資料1】成田市景観計画 類型別景観形成方針（景観類型図）



凡例

景観ゾーン	 里地景観ゾーン	 工業地景観ゾーン	景観拠点	 歴史景観拠点	景観軸	 沿道沿線景観軸
	 住宅市街地景観ゾーン	 成田国際空港周辺景観ゾーン		 駅周辺景観拠点		 河川景観軸
	 商業地景観ゾーン					

【参考資料2】成田市景観計画 類型別景観形成方針

類型	形成方針	景観計画 参照頁
里地 景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の特徴的な里地や印旛沼をはじめとする水辺などの良好な景観を望むことができる場所では、そこからの眺めを大切にし、阻害しないよう努めます。 • やすらぎのある里地景観の保全を目指し、農地や屋敷林、谷津、斜面林の連なりなどの緑の景観の保全を図ります。 • 山林や空地などは、周辺との調和に配慮した適正な維持管理に努めます。 • 歴史・文化的資源や慣習行事など地域の伝統を活かした景観の形成を図ります。 • 大規模な建築行為などは、航空機からの眺めに配慮します。 	22
住宅市街地 景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> • 良好な市街地景観を望むことができる場所では、そこからの眺めを大切にし、阻害しないよう努めます。 • 季節を感じ、快適に暮らすことができる街並み景観の形成を目指し、多様な緑の創出に努めます。 • 住宅地では、ゆとりのある街並み景観を形成するため、圧迫感のない空間の創出を図ります。 • 多様な形態の建築物が混在する場合は、敷地ごとの緑がつながるよう、通りからの見え方に配慮します。 	23
商業地 景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> • にぎわいのある景観の形成を目指し、建築物や工作物、屋外広告物の配置・規模、形態・意匠、色彩及び素材などに配慮します。 • おもてなしの心を大切にしたい道づくりと魅力ある街並みの表情づくりに努めます。 	24
工業地 景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> • 周辺の環境と調和した建築物や工作物の配置・規模、形態・意匠及び色彩などに配慮し、まとまりのある景観の形成を図ります。 • 周辺環境に配慮した緑の配置により、緑豊かな景観の形成を図ります。塀や柵、擁壁を設置する場合は、圧迫感を与えないよう配慮します。 	25
成田国際 空港周辺 景観ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> • 空港施設や航空機を眺めることができる快適な視点の確保と場の整備に努めます。 • 周辺の緑と調和する建築物や工作物の配置・規模、形態・意匠及び色彩などに配慮し、まとまりのある景観の形成を図ります。 • 屋外広告物については、形態・意匠、色彩に配慮し、わかりやすい沿道景観の形成を図ります。 • 大規模な建築を行う場合は、航空機からの眺めに配慮します。 • 大規模な空地や未利用地等では、周辺との調和に配慮した適正な維持管理に努めます。 • 成田国際空港では、空港利用者に成田のまちの良好な印象を与える景観の形成を図ります。 	26
歴史景観 拠点	<ul style="list-style-type: none"> • 成田の歴史や文化を感じさせる街並み景観を形成し、歴史・文化的資源と調和するよう建築物や工作物、屋外広告物の配置・規模、形態・意匠、色彩及び素材などに配慮します。 • おもてなしの心を大切にしたい道づくりと魅力ある街並みの表情づくりに努めます。 • 歴史・文化的資源や慣習行事を含めた地域の伝統を活かした景観の形成を図ります。 • 視対象となる景観資源のある場合には、良好な眺めに配慮した景観の形成を図ります。 	27
駅周辺 景観拠点	<ul style="list-style-type: none"> • 建築物や工作物、屋外広告物について、配置・規模、形態・意匠及び色彩などに配慮し、地域の顔にふさわしい表情のある景観の形成を図ります。 • 成田市の玄関口となる成田駅の周辺では、成田山新勝寺表参道へのつながりを意識し、おもてなしの心を大切にしたい道づくりと魅力ある街並みの表情づくりに努めます。 	28
沿道沿線 景観軸	<ul style="list-style-type: none"> • 景観軸となる道路、鉄道などの周辺では、街並みや自然環境に調和するよう建築物や工作物、屋外広告物の配置・規模、形態・意匠及び色彩などに配慮します。 • 構造物などの施設や占用工作物は、周辺の街並みや自然環境と調和した形態・意匠や色彩に配慮します。 • 道路や鉄道が良好な視点となる場合は、視点の場としての整備や管理に努めます。 	29
河川 景観軸	<ul style="list-style-type: none"> • 構造物などの施設や占用工作物は、河川周辺の環境と調和した景観の形成を図ります。 • 河川堤防が良好な視点となる場合は、散策路などの確保や、うるおいを感じられる良好な河川の管理と環境整備に努めます。 	30
成田山新勝寺 表参道周辺 景観形成 重点地区	<ul style="list-style-type: none"> • 成田山新勝寺へとつながる参道として、歴史や文化を感じさせ、本市を代表する景観の保全・形成を図ります。 • 成田山新勝寺大塔への眺めに配慮し、視点となる場からの良好な景観の保全・形成に努めます。 • 多くの観光客が訪れる門前町として、地域との連携を図り、おもてなしの心を大切にしたい歩行者空間の創出と魅力的な表情づくりを行います。 	別冊

**【参考資料3】成田市景観計画 景観に配慮した公共施設の整備等の考え方
(施設別景観形成の方針)**

道路の景観形成の方針

景観形成の方針

- ①周辺の景観に与える影響を抑えるため、地形の改変は最小限とする。
- ②擁壁や法面は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。
- ③市街地では、歩行者が魅力を感じられるよう工夫する。
- ④道路が良好な視点となる場合は、景観への影響を最小限に抑えるよう、道路構造物、占用工作物の配置、形態・意匠及び色彩を工夫する。

橋梁等の景観形成の方針

景観形成の方針

- ①橋梁、水管橋、送水管の形態・意匠及び色彩は、周辺の景観に配慮し、圧迫感や違和感を与えないよう努める。

公園緑地の景観形成の方針

景観形成の方針

- ①敷地の周囲は、良好な緑の景観を形成するよう努める。
- ②公園から良好な景観が得られる場合は、視点の場を快適な空間として整備に努める。

河川の景観形成の方針

景観形成の方針

- ①河川構造物等は、周辺の自然景観と調和する形態・意匠及び色彩とする。
- ②河川が良好な視点となる場合は、視点の場を快適な空間として整備し、適切な管理に努める。

公共建築物の景観形成の方針

景観形成の方針

- ①成田市景観計画の景観形成基準を遵守する。